

令和4年度
宮崎国際大学 教育学部
一般選抜後期

試験問題
【小論文】

受験番号
氏名

教育学部 小論文

〔設問〕 次の文章を読み、山崎浩敬さんは小学生たちの行動のどういった点に心打たれたのか、また、あなたは人と人との心の交流についてどうありたいと考えるか、600字以内で述べてください。

〔資料〕

和歌山市役所に勤める山崎浩敬さん(59)は毎朝7時台、同じ時刻のバスを待つ。目の見えない山崎さんにとって乗り降りは大変だが、そのバスなら小学生が乗り合わせ、手助けしてくれるからだ。

「バスが来ましたよ」。紀ノ川の河口に近い狐島宮前バス停で、初めてそんな声をかけられたのは十数年前。白い杖を持つ自分に女の子が教えてくれた。腰のあたりを指でチョンとつつき、ドアまで導いてくれる。「座らせてあげて下さい」と席の確保まで。胸が温かくなった。

進行性の目の難病「網膜色素変性症」と診断され、視力は落ち視野も狭まる。バイク通勤だったが、自転車にも乗れなくなり、最後にバス通勤に切り替えた。その子が卒業すると、妹や後輩が誘導役を継いでくれた。和歌山大付属小学校に通う女の子たち4人である。感謝の念を昨秋、作文につづった。全国信用組合中央協会のコンクールで大賞に選ばれたのがきっかけとなり、山崎さんはこの1月、小学校を訪問。初めて4人と一堂に会することができた。

受賞作を読んでみる。「小さな親切のリレーで、退職まで何とか頑張れそうです」とお礼の言葉が続く。取材を終え、バス停に立つ。車の量が多く、風も強い。山崎さんにとって小さな手がどれほど心強かったことか。

きょうから新年度。初めての駅や初めてのバス停に立つ方もおられよう。コロナのせいで人と人が隔たり、言葉をかけにくい状況は続くけれど、だれも孤立しない一年間であってほしい。

(2021. 4. 1 「天声人語」朝日新聞)